Gunma Museum Of Natural History

友の会通信

2014 Vol. 30

～群馬県立自然史博物館友の会～

体験活動 「コケの観察会」 11月17日

風が少し冷たく感じ始めた秋空の下、千葉県立中央博物館からコケの専門家の古木達郎先生を迎え、友の会会員17名ほかスタッフも含め総勢２０名が参加して自然史博物館周辺でコケ植物の観察会を行いました。

コケ植物は全世界に2万種、日本国内に2千種あり、群馬県内でも６００種ほど報告されていますが、最近では群馬県での調査報告がないため、あと１５０種くらいは見つかりそうとのことです。

最初に「街中でふつうに見られるコケ植物」の冊子（出典：原色日本蘚苔類図鑑（保育社））で、茎と葉の区別があるセン類と区別がないタイ類、ツノゴケ類の体の造りの違いについて学んで、すぐに観察に出発しました。

博物館の正面玄関から出て北側の壁際、東側の駐車場の縁石まわり、西側の道路を渡って谷筋の杉林の中、野球場周りの石垣や敷石の間などいろいろな生育場所で多くの種類のコケ類を実体顕微鏡を使って観察しました。

- 地面に生える立つセン類では、帽子に毛があるコスギゴケ、中肋（ちゅうろく：葉の葉脈に相当）に板状の列のあるタチゴケ、一般にヤマゴケといわれる白っぽいホソバオキナゴケ、名前そのままのツチノウエノタマゴケやツチノウエノコゴケなど。
- 地面に生える這うセン類では、切り株の上に多く生えるノミハニワゴケ、葉が曲がっているハイゴケなど。
- コンクリートの上に生えるセン類では、葉の上半分が白っぽくて銀色に見えるギンゴケ、目地に生える茶色っぽいハマキゴケなど。
- 木の上に生えるセン類では、葉が細くて光っているホソミツヤゴケなど。
- タイ類ではゼニゴケが観察できました。

普段目にしているコケの種類がこんなにもたくさんあったのかと驚くと同時に、種類が分かる面白さを感じました。
古木先生は参加者の素朴な疑問にも丁寧に答えてくださり、コケについての面白い話も聞けました。

- キノコのような菌類と違って、コケ植物は一年中あるのですべて分類されている。
- コケ植物はすべて多年生で胞子で増え、ムカゴでも葉1枚からでも増える。
- 胞子は空中を飛んでくるため種類は大陸のものと同じである。
- コケの好きな場所は草が生えていない適度な湿り気がある所だが、水分がほとんどなくても乾燥に耐えて生きていける。
- コケは昼間乾いていて夜湿っているのが好きで、昼間水を与え続けると枯れてしまう。
- 有名な苔庭のコケはウマスギゴケが多く、臨済宗や曹洞宗のお寺に苔庭が多い。

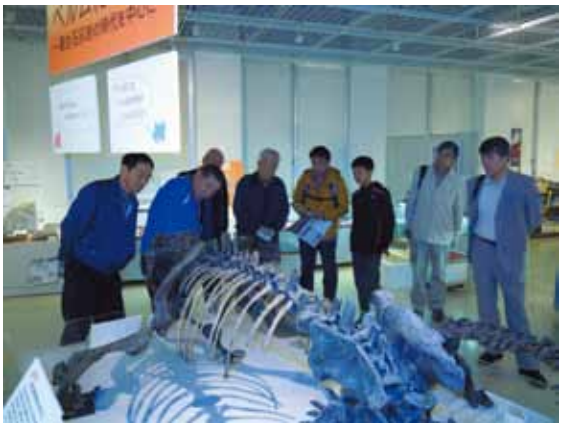
など、3時間の観察時間が短く感じるくらい面白くてためになる観察会でした。（櫻井昭寛）

【参加者の声】

★寒くなったこの季節、また、博物館の周囲という狭い範囲に多くのコケが見られたことに驚きました。（北爪二郎さん）
★顕微鏡でコケの観察をし、細かな部分まで見ることができ、感動しました。（新井綾実さん）
★コケは身近だが、種類など考えたこともなかったので、散歩の時の楽しみが増えました。（平沢志保さん）
★講師の先生の熱心さが伝わってきて、もう少しいろいろ聞けたら良かった。（平沢節子さん）
★先生がコケを語るとき楽しそうで、コケ類を身近に思え良かった。（平沢茂さん）
★普段、見慣れているコケが顕微鏡で見ると、まるで別の植物のように、想像以上に美しくて大変感動しました。もっと顕微鏡で見たかったです。（瀬下真弓さん）
★コケ＝緑のもこもこしたもの、としか思っていなくて、コケといってもこんなに種類があるなんて知りませんでした。あまり興味の無いような子ども達でしたが、顕微鏡で見た後はきれいなのが印象に残っているようで、家の周りでもコケを見つけると、ジーっと見ています。（木樽景子さん・優輝・大輝君）
★植物を見るのとちがった目でコケを見られて面白かった。（櫻井昭寛さん）
★コケは身近な生物なのに研究者が少なく、わからないことが多いという事におどろかされました。（倉金秀行さん）
★ふだん何気なく見ているコケの世界がこんなに奥が深いとは思いませんでした。我が家のコケにも目を向けて、一つひとつのちがいを観察したいと思います。（倉金由起子さん）
★コケをよく見たことがありませんでしたが、今回見てみて、いろいろ種類があり、観察すると一つひとつ違うということが発見できてとても楽しかったです。（倉金香菜子さん）

【視察研修】葛生化石館・なかがわ水遊園

平成25年度の総会が5月12日（日）午前10時から博物館学習室で行われ、18名の出席がありました。総会では川原英雄友の会会長、そして自然史博物館住谷次長の挨拶に続き、昨年度の事業報告及び決算報告、今年度の事業案並びに予算案について審議しました。また、この日は当館が行う「博物館の日」でもあり、「学芸員による特別解説」や「化石のレプリカづくり」などが行われ、たくさんのお客さんに参加していただきました。秋も深まる10月20日（日）、参加者26名は8時に自然史博物館を出発。栃木県の「葛生化石館」と「なかがわ水遊園」を目指し、バス旅行がスタートしました。



川原会長の挨拶、参加者の自己紹介、子どもたちの弾んだ声、夢と期待を乗せて佐野市葛生に10時に到着「葛生化石館」では、「ペルム紀の世界」「全国の石灰岩」「葛生層下部・上部」に分け、貴重な化石が展示されていました。見学は二班に分かれ、解説のボランティアにより案内をしていただきました。

当地から発掘されたニホンサイ、ヤベオオツノジカ、葛生原人といわれた人骨などは数十万年前にタイムスリップしたようでした。全員が葛生層の石灰岩をおみやげにいただき、米粒のような化石フズリナを探す楽しみができました。

昼食をバスの中でいただき、午後は大田原市佐良土にある「なかがわ水遊園」を見学しました。東京ドーム4個分もある広大な公園の様子は、雨が激しく見ることができず、急いで水族館に入りました。ここは、日本でも珍しい淡水魚の水族館で那珂川から世界のアマゾン川、サンゴ礁の魚まで大小合わせて約60の水槽で飼育されていました。どの水槽も太陽光をふんだんに取り入れ、いきいきと泳ぐ魚たちの水槽は時間のたつのも忘れるほどでした。

アクア・コリドールで巨大な淡水魚ピラルクー5匹にニジマスを食べさせるというところを見学し、ここで集合写真を撮り「なかがわ水遊園」を後にしました。

すばらしい研修旅行を計画し、実行してくださいました関係者様に深く感謝申し上げます。（堀越友子）

参加者の声

★淡水魚の水族館ははじめてだったので勉強になりました。（倉金香菜子さん）

★普段出かけることのない施設へ行くことができるので毎回楽しみにしています。なかがわ水遊園の大きさにおどろかされました。家族と有意義な時間が過ごせました。（倉金秀行さん）

★葛生化石館では解説員の方からとてもわかりやすく丁寧に教えていただきました。なかがわ水遊園では想像していたよりもとても大きな水族館でとても見ごたえがありました。ピラルクーの餌付けも見られて楽しかったです。（倉金由起子さん）

★化石館はちょうどイベントをやっていて時間があればスタンプラリーをしながら他の施設も回ってみたかった。水族館もカメやヒトデに触れたり、エサやりを見たりと館内だけでも充分楽しめたが、雨でなければ屋外施設も行ってみたかった。（太田郁代さん）

★孫と二人、初入会、初参加をさせていただきました。昼食までいただき会費3,500円では足りないのではないかと思いますが・・・ありがとうございました。（西山友次さん）

★すいゆうえんでトンネルのところをおよぐピラルクーがとてもでっかくておどろきました。（西山桃太郎さん）

★施設の屋内の展示視察だけでなく、参加者がその施設のイベントに参加できたらよかった。（櫻井昭寛さん）

★水遊園では展示されている河川一連の関連が良かった。また、安価で助かります。（三上金次さん）

★葛生化石館では骨格標本とはく製標本が並べて展示されており、よく比較できてよかった。ただ、1日雨で残念でした。（柳澤敬一さん）

★天気が良ければもっと良かったです。久しぶりに参加できて楽しかったです。（岸和弘さん）

★水族館では淡水魚をたくさん見ることができて驚きました。特にピラルクーを見られたのは驚きました。化石館では鉱石や化石を見ることができて勉強になりました。（岸拓未さん）

★初めて研修旅行に参加させて頂きました。子ども(3歳)もすごく楽しかったようで、帰ってから写真を見てうれしそうにしていました。天気は雨で残念でしたが、屋内での視察だったので良かったです。機会があれば、また参加したいです。（桐生かおるさん）

★すいゆうえんでエサをやって、パックとたべるのがたのしかった。（太田和希さん）

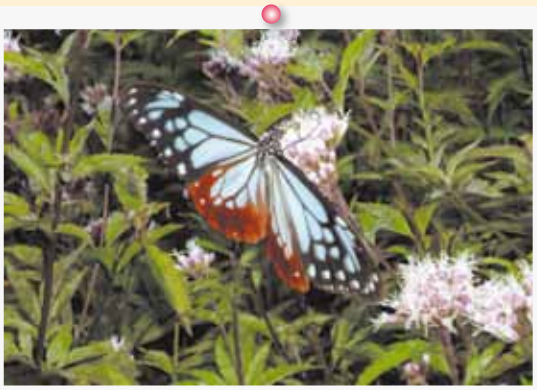
私が見つけた自然 友の会会員からのおたより

『アサギマダラ』

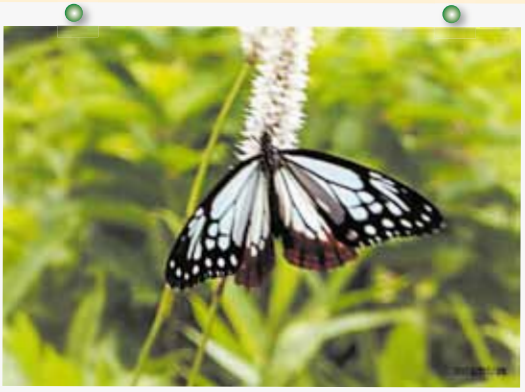
　庭にある花にきているようですが、今年はじめて見る蝶なので珍しく思い、写真を撮ってみました。図鑑で見るとアサギマダラではと思うのですがどうでしょう。

■撮影日：平成２５年１０月３０日

■撮影場所：家の庭（岸拓未）



『アサギマダラ②』



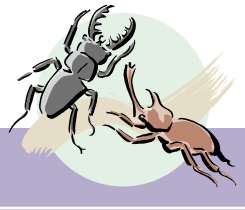
　昨年7月ドライブで野反湖へ行ったときのことです。湖畔は下界の暑さを感じさせないさわやかな風が吹き、大変気持ちのよい日でした。周辺のお花畑は今が盛りと咲き誇っていました。その中を、翅の模様が鮮やかな大型のチョウが飛んでいました。話題の蝶アサギマダラでした。あまり人を恐れずに盛んにイブキトラノオの花の蜜を吸っていました。その時の写真です。このチョウはマーキング調査により、移動の様子を調べるチョウとして知られています。南西諸島や台湾などで多く確認されています。中には和歌山県でマーキングされた個体が83日後に2,500km離れた香港で捕獲されたそうです。この調査により、アサギマダラの生態が明らかにされてきています。

　かつて、国蝶選定の際、オオムラサキと争ったチョウとしても有名です。このような形で、美しいアサギマダラとの出会いができたことに満足しています。

（柚木郁）

INFORMATION

イベント紹介



【友の会総会】	日時：5月11日（日）10：00～10：30
【友の会講演会】	日時：5月11日（日）10：45～11：45　講師：長谷川善和名誉館長 内容：「オオヤマネコとニホンオオカミは共存したか」　場所：学習室

【第45回企画展「生き物をまねる －ネイチャー・テクノロジー－」】

会　期：3月15日（土）～ 5月11日（日）
観覧料：一般600円　高校・大学生300円

新幹線500系の先頭車両は、カワセミのくちばしをヒントにしています。このように、生き物の体の「かたち」や「しくみ」をヒントにつくられた工業製品を生物標本と一緒に紹介します。

写真（富澤勝則）

【第46回企画展「むし虫ウォッチング2」】

会期：7月12日（土）～8月31日（日）　観覧料：一般700円　高校・大学生400円

前回ご好評いただいたむし虫ウォッチングの第2弾。貴重な昆虫標本や写真などの展示の他に、巨大なアゲハチョウやカブトムシも登場します。昆虫のダイナミックな映像もご覧頂けます。

友の会入会・継続のお願い

博物館への入館料が1年間無料！

その他の**入会特典**は次の3つです。

1. ミュージアムショップの割引
2. 友の会行事等への参加
3. 博物館からの情報配布

年会費

①一般会員	3,000円
②高・大学生	2,000円
③小・中学生	1,000円
④家族会員	5,000円
⑤賛助会員（1口）	10,000円

★現会員の方は、引き続き入会をお願いします。また、お知り合いの方に新規加入をおすすめいただければ幸いです。

私が見つけた自然　募集中

自分の身の周りで、かわいらしい自然を見つけたとき、珍しい自然と出会ったとき、その瞬間をカメラで記録して、写真とその時のエピソードを添えて自然史博物館友の会へ封書またはメールでお送りください。日付と撮影場所をお忘れなく・・・。エピソードは簡単なコメントで大丈夫です。友の会通信で紹介させていただきます。なお、応募していただいた方に素敵な賞品をプレゼントいたします。

【博物館利用案内】

開館時間：午前9時30分～午後5時（ただし入館は午後4時30分まで）

休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日）
年末、その他（博物館ホームページでご確認下さい。）

観覧料：一般500円　高校・大学生300円　中学生以下無料
企画展開催中は特別料金（上記「イベント紹介」をご覧ください）

※身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその介助者1名は無料　※消費税増税に伴い料金が改定される場合があります

編集後記

『友の会通信』も今回で節目となる30号となりました。当館が開館されたのが平成8年10月で、その後、自然史博物館が発足し、『友の会通信』が創刊されたのが、平成11年です。過去の紙面を振り返ると、友の会活動の歴史が懐かしく、楽しく思い出されます。活動の歴史を残すことの大切さをしみじみと感じます。更なる発展を期待します。　編集委員　柚木　郁

群馬県立自然史博物館
友の会通信2014 vol.30

■平成26年2月1日発行
■編集・発行　群馬県立自然史博物館友の会　〒370-2345　群馬県富岡市上黒岩1674-1
TEL.0274-60-1200　FAX.0274-60-1250　Home Page　http://www.gmnh.pref.gunma.jp/